

彙 報

会 長 庄垣内 正 弘

2004年度第1回常任委員会

日 時：2004年4月24日（土）14:00～18:00

場 所：京都大学文学部小会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、熊本 裕、
日比谷潤子、藤代 節

オブザーバー：吉田和彦（編集委員長）、森 若葉（事務局長補佐）

[報告事項]

- (1) 会計監査について
4月17日に2003年度の会計監査が行われた。
- (2) 第129回大会について
第129回大会（2004年度秋季大会）を11月20日（土）、21日（日）に富山大学で行うことを引き受けて貰った。大会実行委員長は藤本幸夫氏にお願いしたい。
- (3) 各委員会からの報告
 - ・編集委員会（吉田和彦委員長）
『言語研究』第124号を11月に、第125号を3月に刊行した。新たに北原久嗣氏（慶応義塾大学）に編集委員に加わって貰った。
 - ・大会運営委員会（上山あゆみ委員）
4月10日に大会運営委員会を開催し、6月20日（土）、21日（日）に東京学芸大学で行われる第128回大会のプログラム等を検討した。
- (4) 都立大学の統廃合問題について
東京都立大学の統廃合計画について、常任委員会の審議にもとづき昨年12月22日付で学術会議会長宛に要望書を送付した。この要望書は学術会議第一部で受理され、本年2月16日に行われた同部の会議で議題になった。
- (5) 危機言語シンポジウムについて
危機言語に関するシンポジウム『『危機言語』の国際社会的状況一言語維持のための戦略―』は2004年1月23日に学会館で行われ、無事終了した。

- (6) 科研費審査委員候補者推薦（情報提供）のための選挙について
標記のことについて、1月30日付で日本学術会議第一部語学・文学研究連絡委員会より情報提供の依頼があった。分科「言語学」細目「言語学」の候補者として全体で第1段18名、第2段5名の候補者の情報を提供することが求められ、第1段については、うち4名を東洋学研連がとりまとめることになった。残りの14名枠について、日本音声学会、日本フランス語フランス文学会、日本独文学会、日本中国語学会と協議のうえ、言語学会からは7名の候補の情報を提供することとなった。また上記東洋学研連枠のうち2名についても、言語学会から情報提供することとなった。2月16日発送で委員による郵便選挙を行い、最終的に言語学会からは第1段9名、第2段3名の候補の情報提供を行った。

[審議事項]

- (1) 2003年度決算報告について
2003年度決算報告があり、了承された。なお従来は、積立金を取り崩して使う場合にはその年の収入とし、積み立てる場合には支出とする一方で、全体を一つの資産勘定で処理していたが、今回から、当該年度の通常会計と積立金の基金会計を分け、それぞれで取支決算と資産勘定を行う方式とした。[別表1参照]
- (2) 2004年度予算について
2004年度予算について常任委員会原案を作成した。[別表2参照]
- (3) 第128回大会について
第128回大会（2004年度春季大会）のプログラム案が大会運営委員の上山あゆみ氏から報告され、了承された。
- (4) 東洋学研連からの寄付依頼について
3月14日付で日本学術会議東洋学研究連絡委員会委員長池田知久氏より各学協会宛に研連の活動資金をまかなうことを目的とする募金の依頼があったことについて審議し、これに応じることを決めた。金額についてはなお検討することとした。
- (5) 国立国語研究所第11回国際シンポジウムの後援について
1月28日付で国立国語研究所より、3月21日、23日、24日に行う国立国語研究所第11回国際シンポジウム「世界の〈外来語〉の諸相：言語の標準化・活性化を目指す言語政策の多様性」に対する後援の依頼があった。経済的な支援は必要なく、会員に周知してくれればよいという条件であったので、常任委員会のメーリングリストで審議し、後援することを決めたが、そのことを改めて確認した。

- (6) 「口頭発表に関する規定」「ポスター発表に関する規定」「ワークショップに関する規定」の改定について
 大会の研究発表等のタイトルを英文でも表示することに関連して、大会運営委員会より諸規定の改定（案）が示された。審議の結果、費用の点から郵送のプログラムは従来通りとするが、ホームページに英語版プログラムを併記する、ただし諸規定は変更せず運用上の処理で対応する、ということになった。
- (7) 各種規定における元号使用から西暦使用への変更について
 過去にさかのぼって諸規定の元号表記を西暦表記に変更することを委員会に提案することが了承された。
- (8) 各種規定英文案について
 大会運営委員会で作成した「口頭発表に関する規定」「ポスター発表に関する規定」「ワークショップに関する規定」の英文版について検討し、承認した。委員会では英語版本文の文言そのものについては審議せず、常任委員会の決定を報告し、その使用を承認して貰うよう提案することになった。
- (9) 各種役員・委員の英文呼称について
 会員から要望があり、今後常任委員会で検討、作成することにした。
- (10) 公開講演・シンポジウムの講師等謝金について
 大会時の講演者、シンポジウム講師、コメンテーター、司会者等の謝金について検討し基準を作成した。また、一大会につき全体の上限を12万円とすることを決めた。
- (11) 『言語研究』の電子ジャーナル化について
 吉田和彦編集委員長より、海外への情報発信の必要性等を考慮し、『言語研究』の電子ジャーナル化を検討するよう提案があった。その長短について審議し、常任委員会として委員会に『言語研究』の電子ジャーナル化を提案することになった。
- (11) 広報委員会検討ワーキンググループの設置について
 現在のホームページ小委員会を発展的に解消し、より広い範囲で学会の広報活動を担当する組織としての広報委員会（仮称）をつくることが提案された。また『言語研究』の電子ジャーナル化についても、この新しい委員会で検討・担当して貰うことが提案された。審議の結果、新広報委員会の来年度からの発足を目指し、常任委員会の中にワーキンググループをつくって準備することを委員会に提案することが決まった。

2004年度第1回委員会

日 時：2004年6月19日（土）10:00～12:30

場 所：東京学芸大学20周年記念館会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、相澤正夫、上山あゆみ、梅田博之、上野善道、大津由紀雄、荻野綱男、生越直樹、影山太郎、加藤重広、菊地康人、北原久嗣、金水 敏、久保智之、栗林 均、郡司隆男、坂原 茂、坂本 勉、坂本比奈子、崎山 理、清水克正、田窪行則、玉岡賀津雄、田村すゞ子、柘植洋一、辻 星児、角田太作、津曲敏郎、長嶋善郎、西光義弘、野田尚史、林 徹、早津恵美子、樋口康一、日比谷潤子、藤本幸夫、堀 素子、益岡隆志、松森晶子、峰岸真琴、宮岡伯人、藪 司郎、吉田和彦、吉田 豊（以上45名）

委任状：27名

オブザーバー：井上和子（顧問）、梶 茂樹（会計監査委員）、松村一登（会計監査委員）、森 若葉（事務局長補佐）

議事に先立ち、大会実行委員長の杉田洋氏より挨拶があった。

[報告事項]

- (1) 東京都立大学の統廃合問題に対する言語学会の対応について
東京都立大学の統廃合計画について、2003年度第2回委員会の決定を承け、11月28日付で委員会の全メンバーに対して改めて意見を求める書簡を送った。その回答に基づき、常任委員会で審議の結果、言語学会として学術会議に宛てた要望書を送ることとなり、12月22日付で同会議会長宛に送付した。この要望書は学術会議第一部で正式に受理され、本年2月16日に行われた同部の会議で議題になった。以上の経緯について『言語研究』125号の彙報に報告するとともに、この要望書の内容を掲載した。
- (2) 危機言語シンポジウムについて
昨年秋の第2回委員会で開催することを決めた日本言語学会主催シンポジウム『「危機言語」の国際社会的状況—言語維持のための戦略—』は2004年1月23日に学士会館で行われ、無事終了した。
- (3) 2005年度（平成17年度）科学研究費補助金審査委員候補者の情報提供について
標記のことについて、1月30日付で日本学術会議第一部語学・文学研究連絡委員会より情報提供の依頼があった。一昨年推薦の方法が大きく変わったが、今回さらに、従来の「推薦」から「情報提供」という形に

なって人数も変わり、時期も早くなった。分科「言語学」細目「言語学」の審査委員候補者として全体で第1段18名、第2段5名の候補者について情報を提供することが求められ、うち第1段の4名は新たに細目「言語学」の枠に加わった東洋学研連がとりまとめることになった。残りの14名について、昨年にならって日本音声学会、日本フランス語フランス文学会、日本独文学会、日本中国語学会と協議し、言語学会は7名の情報を提供することとなった。またこれとはべつに、東洋学研連枠のうち2名についても言語学会から情報提供することとなった。また第2段は上記他学会と協議し、言語学会からは3名の情報を提供することとなった。2月16日発送で委員による郵便選挙を行い、最終的に第1段9名、第2段3名の候補の情報提供を行った。

(4) 2003年度会計監査について

4月17日に梶茂樹、松村一登両会計監査委員により会計監査が行われた。

(5) 2004年度（平成16年度）科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付内定について

4月15日付で日本学術振興会より2004年度（平成16年度）科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付内定について通知があった。金額は2,500,000円であった。

(6) 第1回常任委員会について

4月24日（土）に第1回常任委員会を行った。

(7) 公開講演・シンポジウムの講師等謝金について

上記の第1回常任委員会で、大会時の公開講演、シンポジウムのパネリスト、コメンテーター、司会等の謝金・交通費について検討し、支払いの基準を作成した。また一大会につき全体の上限を12万円とすることを決めた。

(8) 各種委員会からの報告

・編集委員会（吉田和彦委員長）

『言語研究』第124号は11月に、第125号は3月に刊行された。また新たに編集委員として慶応義塾大学の北原久嗣氏に参加をお願いした。

・大会運営委員会（野田尚史委員長）

第128回大会では口頭発表応募80件中51件を採択した（採択率64%）。2003年度第2回委員会で提案された大会の口頭発表等の英文タイトルをプログラムに掲載する件については、規定は改定せず、運用で対応することにした。また英文タイトルは印刷されるプログラムには掲載せず、ホームページにのみ掲載することとする。

- 「危機言語」小委員会（宮岡伯人小委員長）
1月23日に危機言語シンポジウムを開催した。参加者100人を越え、学会員以外の参加者も多数あった。また、特定領域研究「環太平洋の言語」の報告会を本年11月10日、11日の両日東京国際交流館で行う予定である。
- 夏期講座小委員会（荻野綱男小委員長）
2004年度夏期講座の準備を進めている。ポスターはすでに送付済みである。次回は2006年8月下旬を予定している。また、夏期講座も回を重ねたので、開催用マニュアルを秋までに作成する予定である。
- ホームページ小委員会（松村一登小委員長）
昨年秋ホームページをリニューアルした。バックナンバーの目次の入力
が夏前には完成する見通しである。

(9) その他

1. 科研費の「時限付き分科細目」について

昨年の第2回委員会で承認された科学研究費補助金の「時限付き分科細目」の新設要請について、語学・文学研究連絡委員会委員長の井上和子氏より、すでに学術会議での審議を経て文部省に送られ、現在科学技術・学術審議会で審査中であるという報告があった。

2. 評議員の金田一春彦氏が5月19日に逝去された。22日に行われた告別式に日本言語学会名で弔電と生花を送った。

[審議事項]

(1) 2003年度決算について

2003年度決算報告があり、承認された。これは2004年4月17日に梶茂樹、松村一登両会計監査委員によって適正と認められたものである。収支決算の表示法について、今回より、年ごとの「一般会計」と積立金の「基金会計」を分けることにし、それぞれについて収支決算と資産勘定を行う方式にした。[別表1参照]

(2) 2004年度予算について

2004年度予算案を審議し、原案に従って決定した。[別表2参照]

(3) 第129回大会について

第129回大会（2004年度秋季大会）を11月20日（土）、21日（日）に富山大学で開催することが提案され、承認された。大会実行委員長は藤本幸夫氏である。

(4) 東洋学研連からの寄付依頼について

日本学術会議東洋学研究連絡委員会からの募金依頼について審議し、一

口1万円の寄付をおこなうことを決定した。

- (5) 国立国語研究所第11回国際シンポジウムの後援について
 国立国語研究所が3月21日, 23日, 24日に行った国立国語研究所第11回国際シンポジウム「世界の〈外来語〉の諸相: 言語の標準化・活性化を目指す言語政策の多様性」への後援依頼に対し, 時間的な理由により常任委員会で後援を決めた経緯について説明があり, 承認された。
- (6) 各種規定等における西暦使用への変更について
 前回の委員会で継続審議となった各種規定における委員会決定や修正案可決の日付を元号表記から西暦表記に改めることについて, 常任委員会提出の原案にもとづいて審議し, 承認された [別記1参照]
- (7) 各種規定英文版の使用について
 第1回常任委員会で, 「口頭発表に関する規定」「ポスター発表に関する規定」「ワークショップに関する規定」の英文版を検討し決定したことが報告された。そして, この英文版は日本語正文の翻訳として事務的に使用する, 従って文言そのものを委員会で審議することはない, しかし委員会としてその使用を認める, という提案が承認された。また今後文言に訂正が必要な場合も, 常任委員会の責任で行い, 委員会に報告するという方針が承認された。[巻末掲載 Instructions for Oral Presentations, Instructions for Poster Presentations, Instructions for Workshop Proposals を参照]
- (8) 『言語研究』の電子ジャーナル版について
 『言語研究』の電子ジャーナル化について, 吉田和彦編集委員長に説明を依頼し, 優れた論文の海外の雑誌への流出を防ぐこと, 海外に積極的に情報を発信すること, といった内容の提案理由が述べられたあと, その長短が審議検討された。電子ジャーナル化にともない会員数が減少することが心配される点等が指摘され, 今後, なお情報を収集し, 慎重に検討していくことになった。
- (9) 広報委員会(仮称)設立検討ワーキンググループの立ち上げについて
 現在のホームページ小委員会を発展的に解消し, ホームページの管理運営を含めて会の広報活動をより広範囲かつ効果的に行うために, 恒常的委員会としての「広報委員会」(仮称)を作ること, また『言語研究』の電子ジャーナル版の発行について検討し, あるいは実施することもこの広報委員会の担当とすることが提案され, 審議の上承認された。そして, この広報委員会を立ち上げるために必要な準備を行うことを目的として, 常任委員会の中にワーキンググループを作ることが提案され, 承認された。そのメンバーの選出は, 会長に一任ということになった。

- (10) 評議員金田一春彦氏の逝去にともない追悼文を『言語研究』に掲載することが提案され、承認された。
- (11) 大会運営委員会の次期委員長と新委員について
現大会運営委員会委員長野田尚史氏の9月末の任期満了にともない、その後任を柘植洋一氏に委嘱することが提案され承認された。また、野田氏および今回任期満了となる他の5名の委員の後任として、井上優、服部匡、樋口康一、益岡隆志、町田健、三藤博の各氏を委嘱することが承認された。

〔別記1〕日本言語学会会則等の改定について

1. 日本言語学会会則の改定

| (旧) | (新) |
|---|---|
| 附則 | 附則 |
| 本会則は <u>昭和50</u> 年4月1日より施行する。 | 本会則は <u>1975</u> 年4月1日より施行する。 |
| (<u>昭和50</u> 年11月29日修正案可決.) | (<u>1975</u> 年11月29日修正案可決.) |
| (<u>昭和53</u> 年10月14日修正案可決.) | (<u>1978</u> 年10月14日修正案可決.) |
| (<u>昭和59</u> 年11月13日修正案可決。 <u>昭和60</u> 年4月1日施行.) | (<u>1984</u> 年11月13日修正案可決。 <u>1985</u> 年4月1日施行.) |
| (<u>平成5</u> 年10月23日修正案可決。 <u>平成6</u> 年4月1日施行.) | (<u>1993</u> 年10月23日修正案可決。 <u>1994</u> 年4月1日施行.) |
| (<u>平成11</u> 年11月27日修正案可決。 <u>平成12</u> 年4月1日施行.) | (<u>1999</u> 年11月27日修正案可決。 <u>2000</u> 年4月1日施行.) |
| (<u>平成13</u> 年6月29日修正案可決。 <u>平成13</u> 年10月1日施行) | (<u>2001</u> 年6月29日修正案可決。 <u>2001</u> 年10月1日施行) |
| (<u>平成13</u> 年11月17日修正案可決。 <u>平成14</u> 年4月1日施行) | (<u>2001</u> 年11月17日修正案可決。 <u>2002</u> 年4月1日施行) |
| | (<u>2004</u> 年6月19日修正案可決.) |

2. 「会費未納者の取扱いについて」「日本言語学会会議規則」「委員会内規」「小委員会内規」「日本言語学会選挙規則」「選挙細則」「重要な国際会議への派遣の選出方法」「口頭発表に関する規定」「ポスター発表に関する規定」「ワークショップに関する規定」等の改定について
これらの規定の「委員会決定」「修正案可決」等の日付についても、一括して、1. の「日本言語学会会則の改定」に準じて西暦の表記に変え、最終の修正案可決の日付「(2004年6月19日修正案可決.)」を付け加える。

〔別表 1〕 2003 年度日本言語学会決算

自 2003 年 4 月 至 2004 年 3 月

(単位：円)

| 取 入 | | 支 出 | |
|-----------|------------|---------------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 会 費 | 14,163,000 | 刊 行 費 | 5,971,822 |
| 雑 誌 売 上 | 1,912,800 | 発 送 費 | 449,510 |
| 科学研究費補助金 | 2,800,000 | 編 集 費 | 435,091 |
| 預 金 金 利 | 1,938 | 事 務 委 託 費 | 3,927,000 |
| 大会 関係 収入 | 1,778,500 | 大会 関係 費 | 3,410,581 |
| 雑 収 入 | 250,209 | 委 員 会 費 | 259,945 |
| 雑 益 | 359,220 | 常 任 委 員 会 費 | 398,853 |
| 基金からの繰入 | 3,400,000 | 大会運営委員会費 | 935,375 |
| | | 「危機言語」小委員会費 | 306,912 |
| | | 夏期講座小委員会費 | 111,220 |
| | | C I P L 負 担 金 | 100,000 |
| | | 通 信 費 | 531,936 |
| | | 事 務 局 費 | 904,034 |
| | | 消 耗 品 費 | 390,228 |
| | | ホームページ小委員会費 | 224,668 |
| | | 危機言語シンポジウム | 761,180 |
| | | 雑 費 | 174,262 |
| | | 予 備 費 | 20,520 |
| | | (基金への繰入) | |
| | | 選挙関係積立金 | 300,000 |
| | | 名簿関係積立金 | 700,000 |
| | | 夏期講座積立金 | 600,000 |
| | | 記念大会積立金 | 1,200,000 |
| | | e-ジャーナル積立金 | 1,000,000 |
| 取 入 合 計 | 24,665,667 | 支 出 合 計 | 23,113,137 |
| 前 期 繰 越 金 | 30,442 | 次 期 繰 越 金 | 1,582,972 |
| 計 | 24,696,109 | 計 | 24,696,109 |

◇収入内訳（単位：円）

会費

| | |
|--------|------------|
| 国内個人会員 | 12,125,000 |
| 国内維持会員 | 140,000 |
| 国内学生会員 | 564,000 |
| 国内団体会員 | 934,500 |
| 国内賛助会員 | 30,000 |
| 在外個人会員 | 331,000 |
| 在外学生会員 | 38,500 |
| 合 計 | 14,163,000 |

雑誌売上

| | |
|------------|-----------|
| 三省堂書店 | 186,700 |
| 松香堂書店 | 1,302,400 |
| (取り次ぎ業務委託) | |
| 丸善 | 207,900 |
| その他書店 | 63,000 |
| バックナンバー売上 | 152,800 |
| 合 計 | 1,912,800 |

科学研究費補助金 2,800,000

預金金利 1,938

大会関係収入

| | |
|------------------|-----------|
| 127 回大会出店料（6 店） | 60,000 |
| 126 回大会出店料（11 店） | 110,000 |
| 127 回大会予稿集売上 | 576,500 |
| 126 大会予稿集売上 | 977,000 |
| 111～126 大会予稿集売上 | 55,000 |
| 合 計 | 1,778,500 |

雑収入

| | |
|------------|---------|
| 124号抜刷代 | 22,049 |
| 予稿集コピーサービス | 3,160 |
| 広告料(会員名簿) | 225,000 |
| 合 計 | 250,209 |

雑益

359,220

*2002年度決算時に名簿発送費を未払金で立てたが実際の発送費が未払金を下回ったので、差額を雑益として処理した。

基金からの繰入

| | |
|---------------------|-----------|
| 1997年度積立金 | 2,200,000 |
| 2000年度夏期講座積立金 | 400,000 |
| 2001年度危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 |
| 2002年度危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 |
| 合 計 | 3,400,000 |

◇支出内訳

(単位：円)

刊行費

印刷部数 各号共に2,400部

| 内 訳 | 124号(280p.) | 125号(252p.) | 計(532p.) |
|-----|-------------|-------------|-----------|
| 印刷費 | 2,910,600 | 2,976,540 | 5,887,140 |
| 抜刷代 | 51,502 | 33,180 | 84,682 |
| 計 | 2,962,102 | 3,009,720 | 5,971,822 |

*割付・校正料は印刷費に含む

発送費

449,510

『言語研究』発送料(追加発送料は含まない)

編集費

| | |
|--------|---------|
| 通信費 | 59,680 |
| 会議費 | 45,411 |
| 旅費 | 126,000 |
| アルバイト費 | 204,000 |
| 合 計 | 435,091 |

事務委託費 3,927,000

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金。但し1月分相当額の割引を含む。

大会関係費

| 内 訳 | 第 126 回 | 第 127 回 | 計 |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| プログラム印刷費 | 139,650 | 139,650 | 279,300 |
| ポスター印刷費 | 73,500 | 73,500 | 147,000 |
| 出欠葉書印刷費 | 23,100 | 23,100 | 46,200 |
| プログラム発送費 | 226,350 | 187,800 | 414,150 |
| 大会費 | 500,000 | 460,031 | 960,031 |
| 予稿集印刷費 | 794,850 | 589,050 | 1,383,900 |
| | (750 部発行) | (600 部発行) | |
| 講師謝金 | 60,000 | 120,000 | 180,000 |
| 合 計 | 1,817,450 | 1,593,131 | 3,410,581 |

委員会費

| | |
|-----|---------|
| 通信費 | 37,160 |
| 会議費 | 222,785 |
| 合 計 | 259,945 |

常任委員会費

| | |
|-----|---------|
| 通信費 | 1,050 |
| 会議費 | 1,263 |
| 旅費 | 396,540 |
| 合 計 | 398,853 |

大会運営委員会費

| | |
|-----|---------|
| 会議費 | 59,455 |
| 旅費 | 875,920 |
| 合 計 | 935,375 |

「危機言語」小委員会費

| | |
|------------------|---------|
| 通信費 | 14,460 |
| 会議費 | 63,600 |
| 旅費 | 138,000 |
| その他（アルバイト費，印刷費等） | 90,852 |
| 合 計 | 306,912 |

夏期講座小委員会費

| | |
|-----|---------|
| 通信費 | 210 |
| 会議費 | 74,040 |
| 旅費 | 36,970 |
| 合 計 | 111,220 |

CIPL 負担金

100,000

通信費

| | |
|-----------------------|---------|
| 切手購入 | 146,950 |
| 銀行 FAX 料金 | 21,420 |
| 会費請求・督促状送付 | 36,690 |
| カード手数料・送金手数料 | 82,672 |
| 『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー発送 | 70,084 |
| 発表採否通知・司会者依頼状等大会関係送料 | 126,510 |
| その他（文科省提出書類発送等） | 47,610 |
| 合 計 | 531,936 |

事務局費

| | |
|------------------|---------|
| 通信費 | 7,150 |
| 会議費 | 154,175 |
| 旅費 | 209,420 |
| 消耗品費 | 20,339 |
| その他（アルバイト費、校正費等） | 32,950 |
| 事務局長費・事務局長補佐経費 | 480,000 |
| 合 計 | 904,034 |

消耗品費

| | |
|------------------------|---------|
| 文房具（領収証等） | 23,778 |
| 封筒・振替用紙・処理票 （印刷費含む） | 323,400 |
| 会費納入願いなど（印刷費含む） | 43,050 |
| 合 計 | 390,228 |

ホームページ小委員会費

| | |
|-----------------|---------|
| 通信費 | 280 |
| ホームページ更新費 | 199,500 |
| その他（ソフト、学会誌等購入） | 24,888 |
| 合 計 | 224,668 |

危機言語シンポジウム

| | |
|----------|---------|
| 通信費 | 29,390 |
| 旅費 | 45,000 |
| 会場費 | 374,850 |
| 印刷費 | 175,346 |
| 謝礼・アルバイト | 128,000 |
| 文具・消耗品費 | 8,594 |
| 合 計 | 761,180 |

雑費

| | |
|--------------------|--------|
| 徳永先生お別れの会供花, 弔電代 | 30,502 |
| ジフリ君 (自動引落処理用ソフト) | 31,500 |
| 名簿印刷追加費用 | 81,000 |
| 『言語研究』第 123 号発送費追加 | 15,510 |
| 『言語研究』第 123 号別刷り追加 | 15,750 |

| | |
|-----|---------|
| 合 計 | 174,262 |
|-----|---------|

予備費

| | |
|-----------------------|--------|
| | 20,520 |
| 『言語研究』第 123 号寄贈 (発送費) | 20,520 |

(基金へ繰入)

選挙関係積立金 (みずほ銀行定期口座へ) 300,000

名簿作成積立金 (みずほ銀行定期口座へ) 700,000

夏期講座積立金 (みずほ銀行定期口座へ) 600,000

記念大会積立金 1,200,000

(2004 年 11 月 2 日付でみずほ銀行定期口座へ)

e- ジャーナル積立金 1,000,000

(2004 年 11 月 2 日付でみずほ銀行定期口座へ)

◇ 2003 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 | 実 績 | 対予算差異 |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 会 費 | 14,250,000 | 14,163,000 | △ 87,000 |
| 雑 誌 売 上 | 1,200,000 | 1,912,800 | 712,800 |
| 科学研究費補助金 | 2,800,000 | 2,800,000 | 0 |
| 預 金 金 利 | 4,000 | 1,938 | △ 2,062 |
| 大会関係収入 | 1,400,000 | 1,778,500 | 378,500 |
| 雑 収 入 | 50,000 | 250,209 | 200,209 |
| 雑 益 | 0 | 359,220 | 359,220 |
| 基金からの繰入 | 2,200,000 | 3,400,000 | 1,200,000 |
| 収 入 合 計 | 21,904,000 | 24,665,667 | 2,761,667 |
| 前 期 繰 越 金 | 30,442 | 30,442 | 0 |
| 合 計 | 21,934,442 | 24,696,109 | 2,761,667 |

△＝実績－予算

支出

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 | 実 績 | 対予算差異 |
|-----------------|------------|------------|-------------|
| 刊 行 費 | 7,600,000 | 5,971,822 | 1,628,178 |
| 発 送 費 | 500,000 | 449,510 | 50,490 |
| 編 集 費 | 700,000 | 435,091 | 264,909 |
| 事 務 委 託 費 | 4,284,000 | 3,927,000 | 357,000 |
| 大 会 関 係 費 | 3,200,000 | 3,410,581 | △ 210,581 |
| 委 員 会 費 | 250,000 | 259,945 | △ 9,945 |
| 常 任 委 員 会 費 | 600,000 | 398,853 | 201,147 |
| 大 会 運 営 委 員 会 費 | 750,000 | 935,375 | △ 185,375 |
| 「危機言語」小委員会費 | 300,000 | 306,912 | △ 6,912 |
| 夏期講座小委員会費 | 200,000 | 111,220 | 88,780 |
| C I P L 負 担 金 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 通 信 費 | 500,000 | 531,936 | △ 31,936 |
| 事 務 局 費 | 700,000 | 904,034 | △ 204,034 |
| 消 耗 品 費 | 200,000 | 390,228 | △ 190,228 |
| ホームページ小委員会費 | 300,000 | 224,668 | 75,332 |
| 危機言語シンポジウム | 0 | 761,180 | △ 761,180 |
| 雑 費 | 50,442 | 174,262 | △ 123,820 |
| 予 備 費 | 100,000 | 20,520 | 79,480 |
| 選 挙 関 係 積 立 金 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 名 簿 作 成 積 立 金 | 700,000 | 700,000 | 0 |
| 夏 期 講 座 積 立 金 | 600,000 | 600,000 | 0 |
| 記 念 大 会 積 立 金 | 0 | 1,200,000 | △ 1,200,000 |
| e-ジャーナル積立金 | 0 | 1,000,000 | △ 1,000,000 |
| 支 出 合 計 | 21,934,442 | 23,113,137 | △ 1,178,695 |
| 次 期 繰 越 金 | | 1,582,972 | △ 1,582,972 |
| 合 計 | 21,934,442 | 24,696,109 | △ 2,761,667 |

△=予算-実績

◇資産勘定

(単位：円)

| 借 方 | 金 額 | 貸 方 | 金 額 |
|---------|-----------|------|-----------|
| 本部事務局 | | 前受会費 | |
| 現金 | 2,246,002 | 国内個人 | 175,500 |
| みずほ銀行 | | 国内学生 | 143,000 |
| 普通 | 1,205,019 | 国内団体 | 14,000 |
| 郵便振替貯金 | 1,967,553 | 在外個人 | 60,500 |
| カード | 14,000 | 在外学生 | 22,000 |
| 事務局 | | 未払金 | 4,135,892 |
| 事務局口座 | 100,142 | | |
| 常任委員会口座 | 201,148 | | |
| 仮払金 | 400,000 | 次期繰越 | 1,582,972 |
| 計 | 6,133,864 | 計 | 6,133,864 |

*仮払金は次年度内に支出予定の費用をあらかじめ支払った場合の科目

2004年度夏期講座費として400,000円を仮払いした。

*未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目

2003年度決算の未払金の内訳は下記の通り。

| 内 訳 | 金 額 |
|-------------------|-----------|
| 危機言語シンポジウム費 | 761,180 |
| 「危機言語」小委員会費（追加分） | 5,652 |
| 『言語研究』第125号印刷費 | 2,976,540 |
| 『言語研究』第125号発送費 | 233,340 |
| 『言語研究』第125号別刷り印刷費 | 33,180 |
| 各種封筒印刷費 | 126,000 |
| 計 | 4,135,892 |

基金 決算

(単位：円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|--------------|------------|---------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 期首特別会計(前期繰越) | 7,050,000 | 一般会計へ支出 | 3,400,000 |
| 一般会計より繰入 | 3,800,000 | | |
| 収入合計 | 10,850,000 | 支出合計 | 3,400,000 |
| | | 次期繰越金 | 7,450,000 |
| 計 | 10,850,000 | 計 | 10,850,000 |

基金 資産勘定

(単位：円)

| 借 方 | 金 額 | 貸 方 | 金 額 |
|-------------|-----------|-----|-----------|
| みずほ銀行普通口座* | 1,200,000 | 積立金 | 7,450,000 |
| みずほ銀行定期預金口座 | 5,250,000 | | |
| 郵便振替貯金* | 1,000,000 | | |
| 計 | 7,450,000 | 計 | 7,450,000 |

*2004年11月2日付でみずほ銀行定期預金口座へ.

○基金内訳

(単位：円)

| | |
|---------------------|-----------|
| 2003年度e-ジャーナル積立金 | 1,000,000 |
| 2003年度記念大会積立金 | 1,200,000 |
| 2003年度選挙関係積立金 | 300,000 |
| 2003年度名簿作成積立金 | 700,000 |
| 2003年度夏期講座積立金 | 600,000 |
| 2002年度夏期講座積立金 | 600,000 |
| 2002年度記念大会積立金 | 400,000 |
| 2001年度夏期講座積立金 | 400,000 |
| 2001年度記念大会積立金 | 400,000 |
| 2000年度危機言語プロジェクト積立金 | 200,000 |
| 2000年度記念大会積立金 | 400,000 |
| 1999年度記念大会積立金 | 500,000 |
| 1998年度記念大会積立金 | 250,000 |
| 1998年度危機言語プロジェクト積立金 | 500,000 |
| 計 | 7,450,000 |

| | | |
|---------------|---------|-------------|
| | | (単位：円) |
| 記念大会積立金 | | (3,150,000) |
| | 2003 年度 | 1,200,000 |
| | 2002 年度 | 400,000 |
| | 2001 年度 | 400,000 |
| | 2000 年度 | 400,000 |
| | 1999 年度 | 500,000 |
| | 1998 年度 | 250,000 |
| 夏期講座積立金 | | (1,600,000) |
| | 2003 年度 | 600,000 |
| | 2002 年度 | 600,000 |
| | 2001 年度 | 400,000 |
| 危機言語プロジェクト積立金 | | (700,000) |
| | 2000 年度 | 200,000 |
| | 1998 年度 | 500,000 |
| 選挙関係積立金 | 2003 年度 | 300,000 |
| 名簿作成積立金 | 2003 年度 | 700,000 |
| e-ジャーナル積立金 | 2003 年度 | 1,000,000 |
| | | <hr/> |
| 計 | | 7,450,000 |

〔別表 2〕 2004 年度日本言語学会予算

自 2004 年 4 月 至 2005 年 3 月

(単位：円)

| 取 入 | | 支 出 | |
|-----------|------------|---------------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 会 費 | 14,250,000 | 刊 行 費 | 7,000,000 |
| 雑 誌 売 上 | 1,200,000 | 発 送 費 | 500,000 |
| 科学研究費補助金 | 2,500,000 | 編 集 費 | 600,000 |
| 預 金 金 利 | 2,000 | 事 務 委 託 費 | 4,284,000 |
| 大会関係収入 | 1,500,000 | 大会関係費 | 3,200,000 |
| 雑 収 入 | 850,000 | 委 員 会 費 | 250,000 |
| 基金からの繰入 | 1,000,000 | 常 任 委 員 会 費 | 500,000 |
| | | 大会運営委員会費 | 850,000 |
| | | 「危機言語」小委員会費 | 300,000 |
| | | 夏期講座小委員会費 | 200,000 |
| | | 夏 期 講 座 費 | 1,500,000 |
| | | C I P L 負 担 金 | 100,000 |
| | | 通 信 費 | 500,000 |
| | | 事 務 局 費 | 700,000 |
| | | 消 耗 品 費 | 250,000 |
| | | ホームページ小委員会費 | 300,000 |
| | | 雑 費 | 100,972 |
| | | 予 備 費 | 150,000 |
| | | <基金への繰入> | |
| | | 選挙関係積立金 | 300,000 |
| | | 名簿作成積立金 | 700,000 |
| | | 夏期講座積立金 | 600,000 |
| 取 入 合 計 | 21,302,000 | 支 出 合 計 | 22,884,972 |
| 前 期 繰 越 金 | 1,582,972 | 次 期 繰 越 金 | 0 |
| 計 | 22,884,972 | 計 | 22,884,972 |

- ◇基金からの繰入は2001年度夏期講座積立金600,000円、2002年度夏期講座積立金400,000円の取り崩し
- ◇雑収入850,000円には夏期講座からの戻し金(当初支出1,500,000円から最低参加者160名の場合の赤字700,000円を引いた残り800,000円を含む)
- ◇前期繰越金1,582,972円は2003年度に2000年度夏期講座積立金400,000円を取り崩して夏期講座実行委員会に仮払いした分を含む。

2003年度第3回「危機言語」小委員会

日 時：2004年1月24日（日）10:00～13:00

場 所：麗澤大学東京研究センター

出席者：遠藤 史，奥田統己，梶 茂樹，金子 亨，呉人 恵，坂本比奈子，
 笹間史子，田村すゞ子，角田太作，中山俊秀，稗田 乃，宮岡伯人，
 渡辺 己

[議事と報告]

- (1) 言語学会大会における「危機言語」小委員会の特別展示について
 1. 坂本比奈子氏より、「危機言語」小委員会の特別展示ならびにワークショップに関する委員会における決定の報告があった。
 2. 「危機言語」小委員会主催の特別展示は、原則として日本言語学会春季大会においておこなうことが決定された。
 3. 春の第128回大会（於：東京学芸大学）の特別展示は、梶茂樹（東京外国語大学AA研），角田太作（東京大学）他，4名で担当することが決定された。残りの2名については公募などにより調整することで合意がなされた。
- (2) 言語学会大会における「危機言語」小委員会によるワークショップについて
 1. 「危機言語」小委員会によるワークショップは、原則として日本言語学会秋季大会においておこなうことが決定された。
 2. 秋の第129回大会（於：富山大学）のワークショップの題目が「フィールドから見えてくる言語の類型：抱合語と複統合語」と決定された。また、発表者として、宮岡伯人（大阪学院大学），中山俊秀（東京外国語大学AA研），呉人徳司（東京外国語大学AA研），永井佳代（学術振興会特別研究員），田村雅史（千葉大学大学院）の各氏が推薦された。
- (3) 若手の啓蒙活動について

危機言語に取り組む若手研究者の啓蒙・育成のためになにをしなければならぬかについて、具体的な方策が討議された。特に、大学院生を対象とした相談窓口のホームページへの設置，英語学会などの他の学会へのリンクを含めて、「危機言語」小委員会ホームページの充実をはかる必要性が指摘された。

2004年度第1回「危機言語」小委員会

日 時：2004年6月18日（日）14:00～18:00

場 所：麗澤大学東京研究センター

出席者：梶 茂樹，呉人 恵，坂本比奈子，佐々木冠，笹間史子，白井聡子，
田村すゞ子，千葉庄寿，角田太作，中山俊秀，稗田 乃，宮岡伯人，
村崎恭子，渡辺 己

[議事と報告]

- (1) 秋の第129回大会（於：富山大学）におけるワークショップについて
すでに推薦された発表者に正式に依頼をするとともに，発表者間での内容調整をおこなうことが合意された。
- (2) その他
 1. 6月20日におこなわれる第128回大会における「危機言語」小委員会主催の特別展示の準備状況に関して坂本比奈子氏より報告があった。
 2. 宮岡伯人氏から，平成16年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表（A）」により，文部科学省特定領域研究「環太平洋の＜消滅に瀕した言語＞にかんする緊急調査研究」にかんする「研究成果公开发表（A）絶滅に瀕した言語—展望と課題—」が，2004年11月10～11日に東京国際交流館にて開催されることが報告された。

2004年度第1回夏期講座小委員会

日 時：2004年6月18日（金）14:00～18:00

場 所：東京大学教養学部10号館301号（会議室）

出席者：坂原 茂，西光義弘，荻野綱男，堀川智也，三原健一，風間伸次郎

実行委員：菅井三実（兵庫教育大学），田中真一（神戸女学院大学）

[議題]

- (1) 夏期講座2004に関すること
実施計画（参加予定人数）と現段階での予算案を検討した。
- (2) 夏期講座2006に関すること
関東地方で8月下旬に行うことにした。
- (3) 夏期講座小委員会に関すること
今後，夏期講座開催マニュアルを作成する。今後の会議等の子定を検討した。

- (4) 6月19日の言語学会委員会での報告事項の検討
夏期講座への参加を呼びかける。

ホームページ小委員会報告

- (1) 学会誌『言語研究』のバックナンバーの目次の遡及入力を第31号～80号について行なった。
- (2) 大会プログラムのページに、各発表の発表要旨を掲載することにした。
- (3) 大会プログラムの研究発表者と発表のタイトルを載せたページを、学会ホームページで大会プログラムの掲載を始めた第120回大会にまでさかのぼって、すべてCGIで表示するように変更した。
- (4) 昨年10月に行なった学会ホームページのリニューアルの際に判明した英語ページの不具合を、本年2月までに改善した。

第 128 回大会

期 日 2004 年 6 月 19 日 (土)～20 日 (日)

会 場 東京学芸大学 (小金井キャンパス)

第 1 日 (6 月 19 日)

開会挨拶

開会の辞

会 長

開催校挨拶

鷺 山 恭 彦

公開シンポジウム

「辞書と言語学一人はどうやって辞書を作るのか」 司会 杉 田 洋

パネリスト 梶 茂樹「フィールドワークで作る辞書」

大曾美恵子「コロケーションと辞書」

町田 和彦「多言語コンシェルジュと電子辞書」

山田 進「辞書と意味記述」

コメンテーター 影山 太郎

第 2 日 (6 月 20 日)

口頭発表 午前 10 時から

。 A 会場

司会 小泉 政利

(A 1) 10:00～ 日本語の後置詞の文法化研究における借用 陳 君 慧
という視点の重要性

一多義性を持つ後置詞「ヲモッテ」を例に一

(A 2) 10:35～ 目的を表わす助詞「に」 中 島 尚 樹

(A 3) 11:10～ 格助詞「に」と後置詞「に」 加 藤 幸 子

橋 本 知 子

村 杉 恵 子

司会 松岡 和美

(A 4) 13:00～ 日本語を母語とする子供の WH-QP・ 山 腰 京 子
QP-QP scope interaction の習得について

(A 5) 13:35～ ハンガリー語の動詞修飾要素とフォーカス 倉 橋 農

(A 6) 14:10～ 対照の「は」が誘発する含意の習得について 照 沼 阿 貴 子

司会 生越 直樹

(A 7) 15:00～ 引用から提題へーいわゆる“提題”の 岩 男 考 哲
「ッテ」について一

- (A 8) 15:35～ 神奈川県座間市で話されている方言における「ようだ」 野島本泰
- (A 9) 16:10～ 補助動詞構文「～てしまう」、
「～아 / 어 버리다 a/eo beolida」の
日朝対照一視覚認識の観点から 白海燕

◦ B会場

- 司会 定延 利之
- (B 1) 10:00～ 日本語の動作主あり受身 (agentive
passive) と受影性 志波彩子
- (B 2) 10:35～ 自他交替する「VN する」と「させる」 金英淑
- (B 3) 11:10～ 日本語の受益構文における否定性・
アスペクト性の浸透現象 澤田 淳
- 司会 郡司 隆男
- (B 4) 13:00～ 「A と B」と連繋タイプについて 永末康介
- (B 5) 13:35～ QR と attachment transformation 田中大輝
- (B 6) 14:10～ 多重スクランプリング構文と EPP 素性 高井岩生
- 司会 坂原 茂
- (B 7) 15:00～ フランス語心理動詞の統語的特性 小澤卓哉
- (B 8) 15:35～ 現代フランス語における接続法の
多様性について 守田貴弘
- (B 9) 16:10～ 倒置指定文としてのスペイン語
es que 構文における推論について 和佐敦子

◦ C会場

- 司会 風間伸次郎
- (C 1) 10:00～ シベ語の使役・受身を表す動詞接尾辞 -ve 児倉徳和
- (C 2) 10:35～ サハ語 (ヤクート語) の共格 江畑冬生
- (C 3) 11:10～ カザフ語指示詞の機能と体系 西岡いずみ
- 司会 木村 英樹
- (C 4) 13:00～ インドネシア語の認識動詞 山崎雅人
- (C 5) 13:35～ バンティック語の動詞の分類:
アスペクトの観点から 内海敦子
- (C 6) 14:10～ サオ語 (台湾中部) における
存在・所有・所在の表現 新居田純野
- 司会 渋谷 勝己
- (C 7) 15:00～ セデック語の不定詞の省略された主語 月田尚美
- (C 8) 15:35～ 現代アイルランド語の分裂文と「名詞句文」 中村千衛

- (C 9) 16:10～ 日英語における指定文・分裂文の情報構造 伊藤 徳文
研究
- 。D 会場
- 司会 金水 敏
- (D 1) 10:00～ チャモロ語、パラオ語、(上代)日本語の 外池 滋生
WH 疑問文
- (D 2) 10:35～ 数量・程度を表す節の構造 岡田 理恵子
—主部内在関係節を含む構文として—
- (D 3) 11:10～ 韓国語受動文の項構造 和田 学
司会 田端 敏幸
- (D 4) 13:00～ Optimality Theory and the Rise of 深谷 修代
Do-support in English Interrogatives
- (D 5) 13:35～ On the Tension between Descriptive 高橋 幸雄
and Explanatory Adequacy in Phonology
- (D 6) 14:10～ 英語における前置付加部を認可する条件 林 龍次郎
司会 井上 優
- (D 7) 15:00～ いわゆる日本語の Event Cancellation 山川 太
について
- (D 8) 15:35～ 比較文における尺度的捉え方について： 澤田 治
「高低的捉え方」と「遠近的捉え方」を中心として
- (D 9) 16:10～ 疑似部分構造における量化と修飾 朝賀 俊彦
- 。E 会場
- 司会 川口 義一 (早稲田大学)
- (E 1) 10:00～ A Statistical Analysis of the Nominative/ 牧 秀樹
Genitive Alternation in Japanese: 森島 玉峰
A Preliminary Study
- (E 2) 10:35～ 動詞テ形と連用形の使用差に関する計量的 林 雅子
調査研究—新聞・論述文・小説における
語彙調査の結果から—
- (E 3) 11:10～ 自然発話データを用いた日韓対照談話分析 朴 成泰
—重なり、あいづち、言いよどみに着目し 小野 尚之
て—
司会 坂本 勉
- (E 4) 13:00～ Contextual Relationship between 下谷 麻記
the Prosodic Features and the Modal
Functions of the Sentence Final Particle *yo*

- (E 5) 13:35～ 文解析実験による陳述・時・様態・結果の副詞の基本語順の判定 小泉政利
玉岡賀津雄
- (E 6) 14:10～ The canonical position of instrumental and locative adverbs in the cognitive processing of Japanese sentences and noun phrases 玉岡賀津雄
宮岡弥生
伊藤たかね
酒井弘
- 司会 上山あゆみ
- (E 7) 15:00～ 脳機能イメージングが明らかにする日本語動詞活用形の処理過程 酒井弘
河原純一郎
田中潤一
丸石正治
村中博幸
道城裕史
- (E 8) 15:35～ 目で見る「与格目的語かき混ぜ文」の脳内処理 福光優一郎
金情浩
小泉政利
- (E 9) 16:10～ 会話ナラティブにおける連続的なイベント構築：日英語の時の表示について 難波彩子

◦ F会場

- 司会 柘植 洋一
- (F 1) 10:00～ クメール語 *coh* の動詞用法（「下りる」と *particle* 用法（許可）の連続性 森 奏子
- (F 2) 10:35～ バラオ語の動詞接辞 *meN-* の機能 下地理 則
- (F 3) 11:10～ ホジェン語の副動詞語尾 *-mi/-m、-re* との共起から見る動詞のアスペクト 李 林 静
- 司会 久保 智之
- (F 4) 13:00～ 朝鮮語慶尚道方言アクセントの語彙クラス 孫 在 賢
- (F 5) 13:35～ インドネシア語における *schwa* を含む第2尾音節への強勢配置 松本圭介
- (F 6) 14:10～ ハルハ・モンゴル語のアクセント 稲垣和也

ワークショップ 15:00～

◦ F会場

研究資料としての同時通訳データ

司会 船山 仲他

同時通訳における想定構築

船山仲他

同時通訳理論研究の動向 水野 的
 言語の情報処理を支えるワーキング メモリの働き 苧阪 満里子

◦ G 会場

Cultural Basis of Linguistic Structures and Communicative Practices: Views from Anthropology and Field Linguistics

司会 堀江 薫

Context and Indexical Construal William Hanks
 A Functional View of Linguistic Diversity 宮岡 伯人
 Embodied Talks: Some Findings from the Analysis of Everyday Conversations among the Gui Bushmen 菅原 和孝
 Wayfinding and Frames of Reference in Signboard Communication 片岡 邦好

ポスター発表 11:30~

◦ H 会場

日本語の複合動詞後項「～あげる」と英語の不変化詞“up”—完了のアスペクトの意味を中心に—電子化コーパス利用による韓国語複数形接辞「-deul」の定量的分析 信田 千佳
 Reconsidering the development of prosodic structure: a cross-sectional study of CV vs. CVV syllables in 14 Japanese children 李 在鎬 高橋 牧

特別展示 11:30~

◦ J 会場

少数言語の文法研究から見えるもの
 企画「危機言語」小委員会
 Haya 語は Swahili 語より 50 倍難しい 梶 茂樹
 オーストラリア東北部ワルング語 (Warrungu) の統語的能格性：世界でも稀な宝石 角田 太作
 複雑な指示詞体系をもつ言語 永井 佳代
 シベリア・ユピック語 (Siberian Yupik) 山越 康裕
 いま起こりつつある形態の変化：シネヘン・ブリヤート語 (Shinekhen Buryat)

◇ 退 会

| | |
|--------|-----|
| 国内個人会員 | 40名 |
| 在外個人会員 | 6名 |
| 国内団体会員 | 6名 |
| 国内学生会員 | 1名 |



◇ 本会評議員金田一春彦氏は2004年5月19日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。



◇ 本誌は、独立行政法人日本学術振興会平成16年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。